

## 平成23年度 第2回米子市歴史館運営委員会会議録

日 時 平成24年3月27日（火曜日） 15時

場 所 米子市第2庁舎2階 第2会議室

### 出席委員の氏名

福代 宏・酒井雅代・原 豊二・前田宣子・長谷川薫代・大村雅夫・  
杉本良巳・安江禎晃・岩佐武彦・山藤良治・浜田美絵・服部麻知子

### 説明のために出席した職員等の職氏名

教育長		北尾慶治
次長兼文化課長		角 昌之
文化財係長		下高瑞哉
主幹		杉谷愛象
主事		福田基樹
主幹		古山俊彦
(山陰歴史館)	館長	国田俊雄
	副館長	笹尾千恵子
(福市考古資料館)	館長	小原貴樹
(上淀白鳳の丘展示館)	副館長	長谷川明洋

議事日程 平成24年3月27日（火曜日） 15時会議

- ・委員長互選
- ・委員長挨拶
- ・平成23年度文化創造計画の進捗状況について
- ・文化創造計画後期計画について

開 会 15:00

- ・教育長挨拶 山陰歴史館の整備事業については、かねて1回計画されたことがございますけれども、凍結をするということになって、現在に至っております。伯耆の国よなご文化創造計画前期計画の中では、歴史館については現実問題大きな動きは作れませんでした。市民の皆さん特に議会の議員の皆さんの中にも特にいろんな思いや考え方があって、なかなか一つの方向性が見出せないということ、また大きな要因としては、米子市の財政状態のことがございます。とはいっても、文化創造計画後期計画の中で、取り組んでまいりますと議会の中でも答弁させていただいておりますし、後期計画を策定する

期間がせまってまいりました。私自身の個人的な思いも含まれると思って聞いていただきたいのですが、この米子の歴史館、米子の歴史をどう手にして皆さんに見ていただくのか、後の世代にどう残していくのかという面で、一回きちっと議論をしないと。今皆さんのご努力で非常に沢山の貴重な資料を集めていただいております。今後整備を進めていくうえで、これらをどう皆さんに見せていくのか、どう伝えあるいは大切に残していくのか、その辺を省くというわけにはないじゃないかと思うのです。貴重な税金を使ってやらせていただく事業ですから。皆さんに理解していただき、納得していただくことが必要だと思っております。そういう面で特に歴史館運営委員の皆様には、ご意見、ご提言をいただこうかと思っております。まだどういう形で場を持つのかということについては、今後ご相談させていただきたいと思っております。そういう大きな思いがございますので、ぜひよろしく申し上げます。

・委員長互選

各委員自己紹介の後互選に移り、委員長に杉本良巳委員、副委員長に安江禎晃委員がそれぞれ選出(再任)された。

・委員長挨拶

朝のテレビを見ておりますと、カーネーションの糸子さんように90何歳になって活躍しておられますので、私もがんばればがんばれるのかな、という心境ですけれども、私も……

今ちょうどこうした文化行政がいろいろな面で曲がり角にきておりまして、なかなか市民の足がこういった施設に向いてこないのを心配しております。どういうふうになれば市民の目をこちらに向けることが出来るのか、そういった面で、伯耆の国よなご文化創造計画も有りますし、最近ようにやかましくなっております「古事記1300年」もありまして、そういった点で、ふるさとの歴史、ふるさとの文化というものが見直されれば、それにこしたことは無いと思っております。

今日は昨年の事業の報告と反省と、さらに今年度、来年度、再来年度に向かってどういう方向でいったらいいのか審議をしていただきたいと思います。宜しく申し上げます。

角次長 山陰歴史館のほうから23年度の事業報告をさせていただくということで申し上げます。

国田山陰歴史館長 山陰歴史館は館長と学芸員2名その中に副館長も含めますけれども、そのほかに受付が3名という体制でやっております。歴史館の使命と目的は、米子市とか鳥取県広く山陰地方の歴史とか民俗というものを広く市民の方に知っていただきたいということと、それから小中学校の生徒を対象にしまして歴史的な雰囲気というような

ものを教えていく、歴史教育という面その2点を考えております。歴史館（山陰徴古館）は大正13年、今から88年前につくられたものでして、（現在の歴史館建物も）結構いろいろなところへ、ガタがきておりその修繕補修にかなり時間をかけております。市から歴史館だけですが、AEDを設置していただき、いざというときには、対応できるようにしております。市史編さんの資料を2階の元市長室に書架を並べて、郷土史に興味のある人には、そこで勉強していただく。5月から、米子の図書館が閉館になりますので、図書館とタイアップしてここを有効に使っていただくため、書架とか机椅子を用意しております。行く行く市史編さん室にあった文献とか資料などというようなものは将来的に米子図書館に移管するというようなことになっておりますが、市史を作った時の写真とかいろいろな資料とか個人情報にかかわるようなものは、歴史館で保管し、そういった資料を使っていただきたいと思っております。「米子錦ライオンズクラブ」が「米子の歴史散歩」（よなごのふるさと散歩）という本を出しておりましたが、古くなったので改訂版を作ってほしいといわれ、淀江地区が全然ありませんので、それも付け加えて一新しました。夏休みに小学生の歴史教室がありますので、それを参加した子供たちに配って、今年は米子の城山あたりを中心に歴史教室を開きたい。以前、杉本先生が館長だった時のように、運営委員の方々にその指導をお願いしたい。

笹尾副館長 展示事業につきましては、ここにいらっしゃる原先生にお手伝いをお願いいたしまして、「中村一忠と八幡神社展」を実施しております。学芸員が案内する館内体験学習は、およそ2000名ほどの市内外の子供たちに、昔の道具などの勉強してもらったという実績を挙げております。

委員長 次、福市考古資料館お願いします。

小原館長 福市考古資料館の小原でございます。歴史館条例に基づきます権限の範囲内は福市考古資料館のみとなり、埋蔵文化財センターは権限外ということにはなりますが、今年度、米子市埋蔵文化財センターと合わせて指定管理をさせて頂いておまして、埋文センターと考古資料館合わせての事業展開をやっているとご理解いただきたいと思います。23年度の事業報告でございますけれども、これまで指定管理は民間の業者がやっておりましたが23年度からは、米子市教育文化事業団が埋文センターと一緒に指名指定で管理させて頂いております。管理組織でございますが、一体的な管理ではありませんが、一応3ページのほうに職員配置ということで、福市考古資料館の方も埋文センターの方もみんな兼任の職員ということで配置をしております。ただ福市考古資料館のほうには受付管理の職員を専任で配置し、福市考古資料館と埋蔵文化財センターと一体的に運営していくということですのですべてまとめております。全体の利用が人数的には2300人弱、件数的には74件今年初めて、福市考古資料館と、埋蔵文化財センターの指定管理をさせて頂きまして、色々な経験をさせて頂いたのですが、前回の実績は、福市考古資料館が1700人くらいで、福市考古資料館のみでは実績が上回っているわけですが、これはいろいろな理由があると思うのですが、福市のほうに史跡公園が併設、そちらのほうに

は沢山利用者があるんですが、資料館のほうは無料なのですが、なかなか行かないというところがかかってまいっております。課題は資料館の展示に如何に人をひきつけるかということと、米子市福市という公共交通機関がほとんど通っていないような場所に立地しているために、事業をこの場で展開しても人が集まらない。いろんな講座を開きましても参加者が10人とか5人というふうなことであります。その辺をどうやって克服していくかという課題があります。埋蔵文化財センターの業務に発掘資料の保管というのが主要な業務になっておりますので、事業報告にも書いておりますように、この米子市の40数年間の考古資料が集積されて来つつあります。これらを今後いかに整理して活用していただけるかが課題になっております。その間の資料、写真ですとか史跡の写真も大量にたまってきております。これらも整理して今後どのように活用するかということが課題になっております。また蔵書のほうがここに書いておりますけれども調査の報告書ですとか民間の研究所の方からかなりの報告書類が、また個人の方からの歴史考古に関する図書がずいぶん集まってまいりまして、総数が現在30,000冊という状態になっております。これらも今後どのように活用していくのが課題です。1年目を迎え、この経験を踏まえまして次年度以降の展開を考えていく所存です。

委員長　引き続きまして、上淀白鳳の丘展示館のほうをお願いします。

長谷川副館長　昨年4月24日に名称変更してリニューアルオープンし、館長、副館長、学芸員スタッフという体制でやっております。一般の方の1/4くらいが団体で、残りが個人です。遠くからは、韓国からの大学生を含めた団体で30名ばかり見えており、国内でも岩手県のほうから岩手大学の団体が見えておりますし結構県内外からも見えているという風に把握しております。自主事業ですが、中途半端に終わったもの、新たに立てたものもございますので、それらを含めてご説明いたします。近接している施設で、古代の丘公園、夢温泉がありますが両方の施設で新たなイベント計画をたてておりましたが、館の運営自体に手がかかり、十分に出来ませんでした。ただその中でサイクリングカーニバル（県内外から200人以上の方が古代の丘公園に集まるイベント）がございましたので。こちらともタイアップして取り込んだところでございます。上淀エリアの中にひとつの核となる施設ができたということで、妻木晩田遺跡との連携事業も始めました。秋の秋麗まつりに参加させてもらい、妻木晩田の中で上淀白鳳の丘展示館を紹介させてもらい、集客につなげました。またリニューアルオープンを記念して、文化課・教育文化事業団の歴史館、資料館とタイアップ、古代の丘シンポジウムを開催いたしました。参加者については現地探訪ということで46人の方に参加していただきました。

今月の17日には金堂の内部に新たな仏像がおかれたのを記念して、「上淀の廃寺のなぞを探る」をテーマに漫画展を今月いっぱい実施しております。昨年4月から上淀白鳳の丘展示館の所管が、文化課から淀江のまちづくり推進室に移りました

委員長　ありがとうございました。一応事業報告はこれで3館終わりましたが、ここで何か質問はございませんでしょうか。

原委員 山陰歴史館の23年度の事業、最初に展示事業の「中村一忠と八幡神社展」歴史館主催ということで私が監修にかかわりまして企画、1706名ということで、私も大変嬉しく思っているところなんです、館長や学芸員の方に考えて頂かないといけないかなんかと思っております。といいますのが、展示初日に二日前になかった資料展示物が増えている。初日にギャラリートークを依頼されていて、ギャラリートークの準備をしていたその日になって、知らないところで展示物が増えている、そういうことが起きないように話しておいた方がいいのかなと思いました。ギャラリートークに関して、学芸員の方に中心になって話して頂いた方がいいんじゃないかと思いました。米子高専連携事業ということで「よなご丸ごと文学館」という事業がございます。非常にいい経験になって、高専の私と松崎教員で深くかかわったわけですが、正直言うと高専の方で全部準備してる。連携事業とはいうものの、歴史館としての主体性とか話し合いとか、もうちょっと主体性があった方がいいんじゃないかと。例えば、場所を提供してもらった図書館の方は、ホームページに載せた、歴史館の方は載ってなかった。先を越されたかなの感がある。たぶん高専連携事業というのは今後も続くと思うので、館として具体的に何がしたいということをわれわれがしてることとぶつけてみて発展させるような形がよろしい。保存活用事業の上の方ですが、《山陰知のネットワーク研究会》となっていますけれども、この研究会の名前がまちがってます。「山陰知の集積・ネットワーク研究会」、年に4回ほど山陰歴史館で勉強会、研究会をしている。今回乗るというのを事前に私が把握していなかったのも、ぜひ言ってほしい。学芸員にぜひ参加して頂きたい。4回研究会をやって学芸員が一度も来ていない。

国田館長 よくわかりました。共催ということになりますと、会場を貸せるだけでなしに、どれだけ歴史館と組み合わせていくのかということが大切だと思いますので、これからちょっとまた考えてみたいと思います。それから学芸員に色々なそういうような場に参加させること、そうでなければいけないと思っております。学芸員が2名、もうあと1名か2名ほし。そうすると人数的に余裕が出来ますね。又これもちょっといろいろと相談してみたいと思っております。

委員長 そのほかございませんか。

入江委員 福市考古資料館・文化財センターの職場体験、南部中学校の生徒が職場体験をするというのは前からされていることなんですか。

小原館長 南部中のほうから埋蔵文化財の仕事を経験させてほしいという申し出があり、それを受け入れたものです。

入江委員 23年度が初めてなんですか。

小原館長 23年度から私どもが指定管理を受けたもので、私どもにとって初めてです。

下高係長 中学生の職場体験というのが1年生ないし2年生で事業の中にはいっており、山陰歴史館で受け入れたり、図書館や美術館でも受け入れてきております。そういう関係で、今回南部中学校から埋文センターへ話が合ったと思っております。

入江委員 資料館というのは、小学校では団体で行くというはあるが、中学校のリピーターはなかなかない。こういったものがあって本当に沢山受け入れられればいい。

下高係長 中学生とか高校生というのは非常に弱い。これは今の学校教育で難しいところがあると思うんですけども、小学生は逆に結構来て頂いております。中学校、高校になるとガクッと落ちてしまうのが現状で、改善していきたいと思っております。

長谷川委員 白鳳の丘展示館のむきばんだ展示館との関連事業ですが、むきばんだ遺跡の《秋麗まつり》等で、個人の車は現地に行かれない、以前は白鳳高校が駐車場であった。このごろは集合場所が米子の流通団地。資料館の前に何ぼ駐車場がありますか、利用して頂きますとあそこで集客ができていいんじゃないか。地域に住んでいる人が便乗したいということで、わざわざ流通団地まで行きません。もうちょっと地域の人のことも考えてもらいたい。主催者の人は参加する側の気持ちになって、あの地域の近くでもう少しバス停をもうけてほしい。

長谷川副館長 今後イベントをされるときは、できるだけそういったような話を実行委員会の中に持って行きたいと思っております。

委員長 じゃあひとつその話は、来年の計画の中に入れて、対処いただきたいと思えます。もう何か他にありませんでしょうか。

原委員 上淀白鳳の丘展示館、平成23年度は企画展がなかったと思うんですが、今年は開館ということもあったのですが、やはり博物館・展示館というものは中にあるものを変えていかないとマンネリになってしまいお客さんが来づらい。観光客にはいいんですが、地元で愛されるのが事業展開だと思います。企画展をしてリピーターがこられるような施設にしていきたい。

長谷川副館長 ごもっともなご意見だと思います。ご承知だと思いますが、今の上淀白鳳の丘展示館では、企画展をやるスペースは物理的にございません。今私のほうが思っておりますのは、展示館のほうに来なければ見られないというもの、市内市外でいいスペースがあれば、逆にそちらのほうでひとつのテーマに基づく企画展をやってみたいなと思っております。展示館にこだわらずにもっと人の行きやすいほかの場所で上淀廃寺がらみのテーマに基づく企画をやるのがベターなのかなと私は個人的には思っております。やり方はいろいろあると思えます。

委員長 長谷川副館長、そうしますと一部をほかの館に持ち出して、その空いたところで違ったものを持ってきて企画展は出来ますね。

長谷川副館長 それも難しいです。技術的な問題もあるのですが、ひとつ組織的な問題で行けば、今私どもの事業の窓口は淀江のほうになっております。文化課と直接的に話をするというのは基本的にはできることでない。今の展示館においてあるものは、実質的には文化課の理解がないと手が出せないという中で、杉本委員長がおっしゃいますようにこちらのものを持ち出すとなると、事前の準備もあるし、また持ち出した先での管理のやりかたそういうことを考えていきますと、あそこに置いてある実物を持ち出すの

は、難しいかと思われます。だから、実質的にはレプリカとか写真とかを中心とした企画展になるように思います。

委員長　　なんともしり貧の道を歩みますな。そんないいものを年がら年中かざってあつたって、リピーターもきません。

原委員　　私も杉本委員長に賛成します。

長谷川委員　　賛同です。地域におりますけれども、よく聞くと変わってないとおっしゃるから、変わっているなら行きますけれども、変わってないならいいやと思ってしまう。

長谷川副館長　　たぶんそれは、おっしゃること僕自身痛感しております。ただ今回の、9000人という人数をどう考えるかということですが、僕自身も確かに同じものを何度も見に来る人というのは条件の中では大変難しいだろうと思っております。ただ本当の意味での上淀廃寺の魅力というところがきめ細かに知られば人自体は、まだまだこられる。というのは、潜在的にあるだろうと。ただし、そこのなかで何をどう魅力付けるかというところを工夫していかないとなかなかむづかしいだろう。そういった意味で1年間やってみてわかったことといえば、米子市民が15万います。9000人の中で米子市民が何人来ているかと。今ところで何が足りないかということ、基本的な情報を流し続けることが重要だという風に思っているのが1年を経ったところの感想です。

委員長　　今年行かなくても来年も再来年もやっているというなら行きませんよ。

長谷川委員　　そういう構えを持って対応しておられると、前もってわかったら私らいきませんよ。

委員長　　研究しまししょう。計画しまししょうや。

長谷川副館長　　これから展示館はどういうふうに対応するか、それについては、どんどんご意見いつていただきたいし。こうしたほうがいいということがあれば、改善して行ったらいいと思います。

委員長　　もう動かんということなら、今年の報告書で全部終わりですから。やっぱり少しは研究しまししょう。そういう余地を残しておきまししょう

委員長　　研究してもらいまししょう。今すぐ返事は出来ませんから。

原委員　　やっぱり観光がやるシステムではだめだと思ふんですよ。地元の人に合わせる教育委員会でない。文化財の保存をやっているけど、地元を無視して動かそうとしてだいたい失敗しますから、地域の方に支持されるような、企画展はするべきであると私は思いますよ。

長谷川副館長　　ちょっと言葉が足りなかったかも知れませんが、企画展を否定するわけではなくて、企画展のやり方はいろいろあるということ、承知しておいていただきたい。

酒井委員　　白鳳の遺物で展示されているものはごく一部だと思います。地元の人に訴えような展示、こんなものもあるんだよというような展示、そこからまた物語があるというような、そこから展示館に足を運んでみようかなと思わせるような、こういうものもあるんだよという展示、ミニ展示を柔軟に考えたら米子市内でもいろいろ出て行けるし、

ついでに言えば、うちの妻木晩田公園のすぐ近くでやられているので、ポスターで来館者に呼びかけることもあるし、展示ケースも空いています。展示スペースも企画展示スペースで期間フリーでやっている部分の、うちで企画する大きな展示の合間に、ミニ企画という期間も設けておりますので、どっちにしても妻木晩田と白鳳と連携して一緒に見て頂きたいと思うので、なにか、いつも歴史館からの矢印ばかりでないんですけれども妻木晩田からももっと連携したいなというところはあるんです。もし余力があって、ポスターならできるということであれば連携出来るし、出来る範囲の事からでいいので、連携を検討されたらいいかなと思いました。

長谷川副館長　ありがとうございます。24年度の計画の中で、展示館でできる企画展というのはやるっていう方針を出しています。ただ、規模とか中身によっては、現実的に間に合わない場合もあるんですが、展示館の十分空いてるスペースを活かしてやるということは決めてますんで、できることはします。酒井委員さんが言われるように、僕の方から言えば同じ思いで、妻木晩田の紹介コーナーを展示館に設けたり、逆に展示館の企画展を妻木晩田の方で企画していただけるような具体的な検討というのは、ぜひ早めに相談しながらやっていきたい。

委員長　議論がなかなか尽きませんが、24年度の事業計画をまず聞いて、そのなかで討議を重ねていきたいと思います。まず山陰歴史館から

笹尾副館長　24年度の展示のメインは「碧川企救男とかた」これは、仮称なんですけども、米子市出身の碧川企救男と、女性運動家の碧川かたに光をあてた展示を実施していきたいというふうに考えています。

委員長　続きまして福市

小原館長　米子市が整備を予定されております米子城について、発掘資料等が、かなり集積されてきておりますので、外に出て行っているんな事業をやろうとしております。自主事業については、米子城をメインにしており、歴史館がありますので歴史館と連携して、例えば企画展で「発掘が語る米子城」あるいは、米子城にかかわる講座、あるいは、発掘成果にかかわる講座、あるいは、出土品にかかわる講座、米子城跡等のガイドツアー、城下町等のガイドツアーと、こういうものも試しに取り組んでみようということで計画しているのが主な企画です。あとは各施設で従来どおり展開する事業をこなしておりますし。ホームページ等も立ち上げており、資料集積デジタル化してかなりデータを取り込んでおりますので、なにかのかたちでそれが公開できないかと考えております。考古図書資料が30000点にもなっており、例えば図書館にそういった考古コーナーを設けていただいて、そこで利用していただくとか、そういう展開も考えております。

委員長　上淀白鳳の丘展示館

長谷川副館長　23年度の事業について色々御意見いただいてありがとうございました。

23年度は管理運営中心の事業だったんですが、24年には整備事業も終って、広報活動の充実を中心にして考えております。自主事業の一つとして、今年度上淀白鳳の丘整備事

業が一つの区切りを迎えますので、今年の 5 月あたりに、淀江の町、白鳳の丘展示館、伯耆古代の丘あたりで地域イベントが予定されております。それに向かって準備をすすめているものです。2つ目の妻木晩田遺跡連携事業ですが、2つある史跡の魅力が、相乗効果を期待して妻木晩田がやるイベントに積極的にかかわっていくことにしております。今年、妻木晩田の事務局と話し合っ、両方の史跡を案内できるチラシを共同制作し、歴史ツアーの効率的な案内が出来るのではと話し合っているところです。三つ目は、今回漫画展を企画しやっている中で感じていることなんですが、先ほど、館が狭いとばかりいっていましたが、ロビーの一角を利用すれば小さな企画展は可能であるということで、24年度はテーマを絞っての企画展を企画しているところです。昨年度に引き続き、周辺の史跡ガイドをやって行きたいと思っております。本年度については、色々なニーズに対応できるようガイド養成をやっていこうと思っております。最後になりましたが、観光客をはじめ、地元の人に喜んでもらえるような事業を立てていきたいと思っております。

下高係長 委員長、先ほど出ていましたけれども、文化課としても今年は湊山球場の件で、米子城跡整備が事業推進ということで出てくるのが予想されます。来年度24年度「もっと知りたい米子城」というテーマをさだめて、いろんなことを米子城にかこつけてやっていこうとしております。山陰歴史館、埋文センターのご協力いただきながら、米子城自体を舞台にしたものを考えておりますので、笹尾さんご説明を。

笹尾副館長 最初埋文センターのほうで事業を山陰歴史館でというような説明をしてくださいったんですが、それに乗っかるような形で、東部にある「鳥の劇場」とさんと連携して、物語のようなまだ内容がまだ細かくは決まっておられませんけれども、米子城の歴史を皆さんに考えていただく事業を展開しようと考えております。それから補足ですが、資料の中に人形の図録が入っております。これは昨年三好の奥田元宋美術館に素鳳コレクションを貸し出した際のものです。今年も兵庫県の竜野市のほうへ資料を貸し出すような話があがっております。つまり、米子市以外のところに資料を貸し出す事業も展開しております。

国田館長 埋蔵文化財センターのほうで土器とかげたとか、展示するということだそうですけど、この際400年をさかのぼって中村一忠の木像と横田内膳の肖像画を1箇所に対面させるのはどうだろうかと思っております。それも「もっと知りたい米子城」の一環としてそれがやれると面白いんじゃないかと思うんですが。それから先ほどの図録の人形が実は沢山ありまして、それがダンボールに入っております。桐でなくともいいですから何とか保管することを考えていただけませんかでしょうか。文化課で年次計画を立てこしらえてもらえませんか高いものから。

下高係長 検討したいとおもいます。

委員長 今説明や何かがありましたけれど、なにか質問はありませんか。

長谷川委員 上淀白鳳の丘展示館ですが、24年度の計画の中で、歴史館友の会をはじ

めとする各団体のボランティア養成講座というのがあります。ところが先ほどの23年度の事業報告で、今月は28日に開催しますというなお話もあります。何回シリーズある程度予定していらっしゃると思うんですけど、以前の友の会の会員さんが解散されたときに、集落で出会ったり、地域で出会ったりすると、講座の勉強会がないかないということを私に聞かれます。ここを見ますと妻木晩田のボランティアの会を主体としたような養成講座のように見受けられるんです。事実私もそういう組織にいたんで、こういう講座の会がありますからという事前の文書が来て初めて、私もお宅の資料を見て初めて知った状態。そうすると地域で心待ちにしておられる人に、報告でもできん。ただし、私たちの以前の会の年齢層は高いですから、すべての人が参加されてGOが出るとは思いませんけれども、対応ができるかどうか、危惧しておられるんですね。地域の人でもそういった心ある人が何人かおられて、参加したいという意思は持っておられます。これが24年度どういう状態で進行していかれるのか、見るとちゃんとした母体がある、これに乗かって、上淀廃寺も見ると連携事業がありますが、これで終わったとも見受けられますし、この講座を受講した方で対応が終わるんじゃないか。なんか私が聞かれますとこういろんな連携講座を妻木晩田と連携されて、何かあそこの延長上にあるんじゃないですかと話をしがちになりますので、そこの辺をはっきりお願いします。

長谷川副館長　　上淀白鳳の丘展示館でどれだけのガイドが必要かについては、はっきりした数字というのはわかっておりません。今回23年度今月28日に妻木晩田のボランティアガイドの会と一緒にやろうといたたいきさつについては、向こうから問いかけてこられまして、是非自分たちも知っておきたい。じゃそれを組むんであれば一緒にやれば入館料もタダになって、とりあえず説明もできますよ。というのがざっくばらんな話。ご存知のとおり、歴史館関係で歴史館友の会があります。淀江のボランティアガイドの会もあります。隣には妻木晩田もあります。そういった歴史館がらみでいろんな任意団体が中で、今回やってみた上で、どういうやり方がベターなのか、ということ踏まえたら、24年度は、こちらの方が関係集団に呼びかけをした講座を所謂1回2回3回程度でやっていこうかというような形で考えている中で、23年度は妻木晩田を出し、24年度は友の会というのを出した経緯でございます。決して地元を無視するか妻木晩田だけと仲良くするとか、そういう意図ではございません。沢山のガイドを要請しても、両施設のガイドと、上淀だけのガイドと、多分妻木晩田だけのガイドもあるんだろうなと思うんです。多分そういった形でガイドの会の協力を受けるのがベターなんかなと思うんです。これも一朝一夕に今日やったからあなたガイドですよという風にはならないと思うんですけど。またその時はその時でご案内します。

長谷川委員　　こういうガイドの講習、養成講座がありますよという広報活動、かなりデータを見ていたつもりですが初めて文書頂いて、エーここにあった。それもいただいてから直ぐですが。

長谷川副館長　　28日場合は、妻木晩田ガイドの会さんの方から申し出があったので受

けてやる。展示館独自のプランでやるのは、24年度からという計画。

長谷川委員 わかりました。会場がどこで、講師さんが誰でとか一切、詳細なことはなかったんですよ。それが、いきなり情報をいただいた中に28日やります。と1筆書いてあるだけで、どこで情報を発信されるのか、どこに情報が出てるのかなとちょっと疑問を持ちました。

委員長 善処してください。そのほかございませんか。

浜田委員 国際漫画サミットだとか、今回の古事記1300年、やるところで県とか市とかセクションの温度差はともあると思うんですけど。全館通じて小学生より中学高校の来館が厳しいのは多分生徒さんの部活動とかいろんなこともあるとは思うんですけど、きっかけを何かつかんでいかないとなかなか小中学生というのは厳しいと思ってるんですね。その点で多分全体の米子市史をとらえて漫画にするのは無理なんで、例えばピンポイント攻撃で米子城なら米子城に絞るとか、本当の目的はきっかけをつくることで、漫画サミットに乗った方がとかそういうことでなくて。きっかけづくりとして、出来たら部とか課とかいろんな事項の調整が必要なのかもしれないんですけど、24年の事業の中に間に合う部分が何かあればそういった期限の中で行事をとらえてもらうことはできないのかなと思うんです。間に合えばご議論いただければと思います。

国田館長 歴史館では、夏休みに模造紙一枚で地図づくりをしようかと思ってるんです。伯耆文化研究会というのがありまして、小学生はよく発表するんですけど、中学生はすくなくて、高校生はゼロですからこまったもんですね。地図だったらちょっといいかな簡単にできるかな、何でもいい地図をつくって、それを発表して、そういう展示会をする企画もしてみんといけんのじゃないかな、それは、やまびこ館がしとったですかね。よそのやつをちょっとお借りてねやってみて、もしやそういうので歴史なんかに興味を持つんじゃないかなとも考えております。

浜田委員 出来たらそういう事業に乗っかってやらないかなと。情報提供はしながらもお互いに情報発信は出来るとか、米子市にも有名な漫画関係の方もいらしゃるし、そういう方にちょっとお知恵をいただくようにすれば。なおかつ助成がほしい。

委員長 今漫画サミットにあわせて漫画で歴史をとということですけど、水木しげる先生の妖怪漫画なら自由自在ですけど、歴史漫画となるとそれにとらわれて、それが史実だととらえられたら困るなという気がしております、事実日本の歴史を漫画にしたのがあるんです沢山。例えば古事記なんかも漫画になっております。私も読んでおります。かなりな大学の先生が監修しております、古事記を非常に忠実に漫画にしております。ところが、米子城を漫画にするとなると、米子城の建設をめぐるまだいろんな説がありまして、まだ確定してない。それを漫画にしたら歴史を誤ることになると思います。私は賛成ではありません。それはすべてにおいて妖怪くらいならいい、それが何かの物語で弁慶が石を投げてくらいならいいですけども。こういった歴史的事実を漫画にする場合は、かなり気をつけた方がいいなと私はそういう風に考えております。

国田館長 賛成。

下高係長 今漫画の話がでたんですけど、鳥取県が事業を組んでおりまして、補助金をまいています。その中で、地方公共団体は事業主体にはなれないですが、白鳳さんとか、教育文化事業団も可能だと思うのですが、そういうところが受け皿になって、補助金をもらって漫画で何かするというのが、23年度、24年度かなり計画されております。その一環でいま白鳳さんも漫画を作っておられますが、委員長が言われますように、歴史的事実を漫画にするというのは確かに表現上確かにむつかしい問題があり、それ以外の米子城の怪談話とかそういうお話がありますので、そういうのを漫画にできたら、ちょっと補助金をもらえないかなと思うんで、今県などと相談はしてる場所ですので、いい方向でおっしゃったようにきっかけ作りになったらいいなと思っております。ありがとうございます。

委員長 そういう範囲だったらいいんですけど、総泉寺狸だったらいいんですけど、それから藤内狐を漫画にするのはいいんですけど、前にある方が米子城の紙芝居をつくったんですけども、わたしはそれはいけなかったですね。内容的に、絵はいいですよ。

長谷川副館長 今の漫画の話の中で、委員長がおっしゃいました、漫画で何を伝えるかということで考えたときに、ただきっかけ作りに活かすというのは非常に有効的だともうのです。そういう思いで企画したのが山陰歴史館の良さをどう伝えるかというときに、漫画をきっかけならと、24年度の山陰歴史館で「上淀廃寺のなぞをとく」をテーマにイントロとしての漫画つくってやる予定だったんですが、僕の言った話で言いにくいんですけど、流れました。これは議論していろんな意見があるのは当然だと思います。ただやはり、楽しみながら歴史を知るということは、子供たちが歴史を漫画で見るというときに、今回流れたのがどうのこうのというわけじゃないですが、山陰歴史館のよさをどう伝えるかというなかで、活かせるものであれば漫画をつかえればというのも当然かなと思ってますので、やっぱり中身、漫画がどこまで伝えられるか限界があると思うんですけど、やはりそこがきっかけになって、本当の資料を見たり、いろいろの資料を自分から学ぶという姿勢が生まれる。その辺は、重要な作用だと思います。あまり頭から漫画漫画といういいかたというのは避けて頂きたいと思います。

委員長 例えば、古事記の漫画なんかは割にいい本です。どこがいいかという、神様は、例えば兄弟4人くらい生まれる。ところが4人の全部の名前を書かないで、例えば、山幸彦と海幸彦、それが主人公ですから。それだけを書いてあとはどっちでもいいわけです。こういうのがいいと思うんですね、そういう風にして、海幸彦の方は、薩摩隼人の祖先になったとかちゃんと古事記のとおりに書いてあるですね。ウミサチヒコがトヨタマヒメと結婚して・・・が生まれて、これが神武天皇になったとそういうことがきちんと押さえてる。要らん人の名前は落としてしまう。神様の名前が何百人も書いてあるんですよ、古事記を読む人はほとんどいない。かくいう私もですけど。そういう点で確かに漫画はいいんですけど、気をつけないと危険です。

国田館長　　そういう話でしたら、例えば古事記なんかは、荒唐無稽な話で漫画と同じ質だとおもわれるんですけど。

委員長　　そんなことはないと思います。古事記は漫画になりやすいんです。神話のひとつしか話がないし。例えば黄泉の国にいて逃げる時、頭に巻いていた蔓を投げつけたら葡萄になったとか、櫛を抜いて投げつけたら筍になったとか、桃の実を投げつけたら鬼が死ぬだとか。ところが、日本書紀にはそれ以外に、櫛は書いてある。蔓も書いてある。ところが最後に桃の実は書いてない。・・・が出てきて小便をしたら、最後に川になったと書いてある。むしろその方が面白い。北方アジアの民族の中にはその話のっているんです。皇孫の祖先がどこからきたかということと、ある意味ではつながるわけです。そういう点では、日本書紀は漫画にしにくい、沢山の話がでてくるから。

原委員　　違史ですね。

委員長　　ところが違史の方が面白い。

長谷川副館長　　とにかく私のほうがお願いしたいのは、実際心配しながらやってきた。3月いっぱいやってますので、実際見て頂いているんな意見を次回に会議の中でお聞かせ下さい。

原委員　　さっきの米子城のイベントは是非やってほしいと思うのです。山陰歴史館の事業の中で企画展が秋口に入ってなくて文化の秋にこういった企画展がないのは寂しいと思いますので、そういう意味では米子城のイベントもちょうどのいいのかな、と思うのです。

笹尾副館長　　今、文化課に出してますけど、そういう方向で調整しているところです。

下高副館長　　鳥の劇場を招いてやるというのが、大体10月くらい。いい具合に話がまとまれば、会場は城山の柘形、大手門のところ入り口の、ただいろいろクリアしなければならぬ問題がありますんで。

原委員　　高校生は来ないとありましたが、米子高専は15歳から20歳までいますし・・・

委員長　　大体話はもう終わったようですけど、ひとつ、全国の博物館がシルバーを中心とした展示になっておりますので、是非小学生や、中学生や、高校生が興味を持つようなそういう展示を考えてみる必要があるかと思うわけです。実際に郷土史の催し集合をやっても、みんな年寄りばかりやってきて、若い人は来ませんので、やっぱりそういった人に対して、もっと興味のあるような展示をやっていく必要があると思うのです。死んだ人の墓やお寺や神社ばかりではどうしようもありませんので、そういう点を考えていって、お互い考えて行きたいと思っております。よろしくお願ひします。そうすると約2時間近く審議をいたしますけれども、平成23年度の運営委員会を終わらせて頂きたいと思ひます。

閉 会 17:00